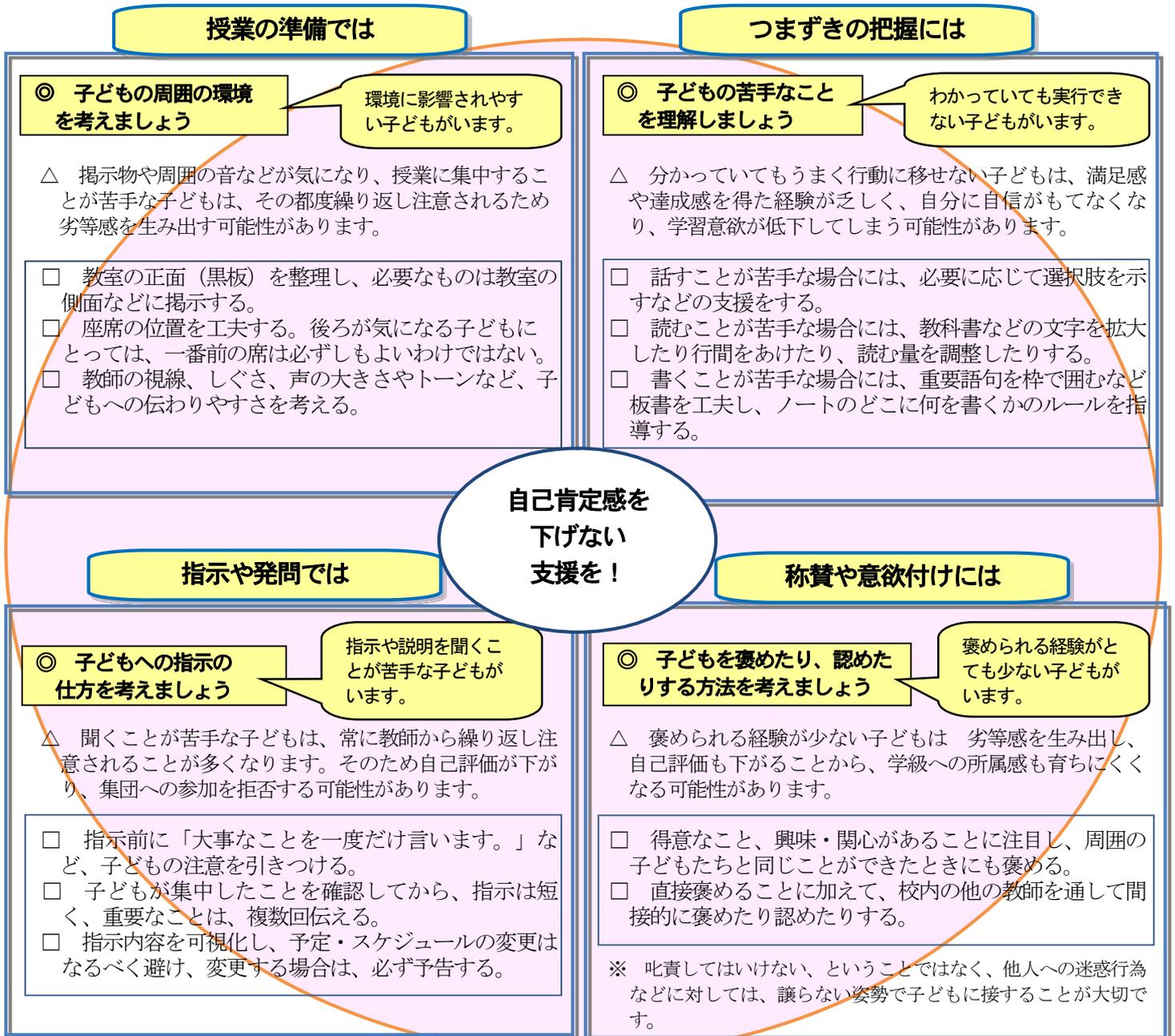


一人一人の子どものよさや可能性を最大限に引き出すために

～ 全ての学級に生かせる特別支援教育の視点から ～

教師が対応に苦慮する子どもは、子ども自身も学びにくさ、生活しにくさを感じながら学校生活を過ごしています。そこで、育ちを見守りつつ、子どものよさや可能性を引き出すためには、自立を目指した適切な指導と必要な支援をバランスよく行い、過不足ない働きかけを継続していくことが大切です。そうした支援により、自己肯定感を下げない学校生活を送ることができます。

以下に支援のポイントを紹介します。これらの支援は、周囲の子どもにとっても有効な働きかけになります。



◇ 保護者と連携するためには ◇

授業中の子どもの様子を伝える前に、**まず、保護者自身をねぎらう言葉かけをしてみましょう**。それから、授業中に支援した内容・方法を伝え、うまくいったこと、うまくいかなかったことを「個別の教育支援計画」を活用して共有しましょう。

また、保護者との共通理解のもと、**一貫性のある指導をすること**が、結果的に子どもの社会性を養い、将来の自立につながることを様々な機会を通して繰り返し話し合ひましょう。

保護者が不安になる教師の「ことば」

- 「困っています」
- 「どうしたらいいか専門家に聞いてください」
- 「忙しいので・・・」
- 「他の子もいますから・・・」

よいことをすればよいことが起こる、
悪いことをすれば悪いことが起こる